

日本の皆さまへ

私はこの手紙をパレスチナから、大虐殺の中心地から、家屋の灰とテントの焼け跡から、世界の目の前で毎日人々が虐殺されているガザ地区から、皆さまに手紙を書きます。

2023年10月7日以来、ガザの人々は絶え間ない爆撃の中で暮らしてきました。5万人以上が殺され、11万人以上が負傷しました。殺戮は終了するどころか、3月18日以降、イスラエルによる大量殺戮作戦が再開されました。わずか数日の間に、1,000人以上のパレスチナ人、そのほとんどが女性と子どもがテントで寝ている間に焼かれ、虐殺されました。家が爆撃され、学校が破壊され、病院が攻撃され、避難せざるを得なかったそのテントで。

ガザには安全な場所はありません。避難所も、水も食べ物も、そして、戦闘機を止めるだけの大きな声もありません。

3月2日以来、イスラエルは食料、水、人道支援物資をガザ地区に搬入することを完全に止めています。230万人が飢え死にさせられようとしています。そして、子どもたちは文字通り、カメラの前で飢えて死んでいるのです。

起こっていることは戦争ではなく、大量虐殺を行うという政治的決定なのです。そして西側諸国は沈黙しているのではなく、武器や資金、外交的な隠れ蓑を提供し、積極的に支援しているのです。

このような状況において、皆さまにおいては活動家としてだけでなく、一人の人間として、私たちとともに立ち上がり、即時かつ恒久的な停戦、占領の終結、封鎖の解除を求める声明に賛同してくださるようお願いする次第です。

すべての賛同署名は、沈黙に抗う声です。

すべての賛同署名は、この犯罪を拒否するものです。

すべての賛同署名は、人間性を共有する行為です。

パレスチナが求めているのは、哀れみではなく正義であり、涙ではなく声です。

署名を、分かち合いを、そして立ち上がってください。

安全保障、政治、沈黙の名の下に、今まさに虐殺されている人々のために。

すべての痛みと、すべての愛をこめて。

フアッド・アブサイフ

パレスチナ農業開発センター (UAWC) 代表